

法政大学報

郵便番号 102-8160
東京都千代田区富士見
2丁目17番1号
発行 法政大学
編集 総長室

第37号 主な内容

新総長決まる 理学部に創生科学科が開設 2011年度入試展望 学生支援GP実施総括など 法政舎舎創とホフノード・梅謙次郎展(6・7面)	(2面) (3面) (4面) (5面) (7面)
サマソリテラ研究機構構想と活動(8面) OB訪問主びで主人 山田耕之亮氏(9面) 付属校短信 きずな深まるオンラインネットワーク(10面) 表章名誉教授を偲ぶ(12面)	(8面) (9面) (10面) (11面) (12面)

最新情報は

<http://www.hosei.ac.jp/>



思いをかたちに

多摩ボランティアセンター
2009年4月、3キャンパス(市ヶ谷・多摩・小金井)に法政大学ボランティアセンターが設立された。それぞれのキャンパスでは教職員と学生スタッフが力をあわせて積極的な活動を行っている。窓外に見えるのはエッグドーム。

巻頭言



総長

増田壽男

大学のアイデンティティとはなにか

法政大学のアイデンティティとはなにか、私はその事例として、野上弥生子さんと大内兵衛元総長の「言葉」について考えてみたいと思います。

野上弥生子さんは、1985年に99歳で亡くなった大女流作家で、「真知子」「迷路」や「秀吉と利休」などの作品が有名である。この野上さんは法政大学女子高等学校の名誉校長を長年勤めておられた。法政女子高の教育の指標として、「女性である前にまず人間であれ」という言葉があるが、これは野上さんが創立期に生徒に話された言葉である。

わが国で女性が参政権を持つようになったのは1946年の戦後第一回の選挙からである。ここで初めて39人の女性議員が誕生した。そして日本憲法がこの年に公布され、男女同権が憲法に明記された。平塚雷鳥が創刊した「青路」に野上さんも参加している。それゆえに、この言葉の意味は非常に深いと思う。私は昨年法政女子高の同窓会に参加したが、70歳を過ぎた法政のOGがそれを誇りにして話す時、この言葉が法政の精神を支えているのだ、と強く感じた。

もう一つは大内兵衛元総長の「われらの願い」についてである。

一、願わくは、わが国の独立を負担するに足る自信ある独立自由な人格を作りたい。

一、願わくは、学問を通じて世界のヒューマニティの昂揚に役だつ精神を振作したい。

一、願わくは、空理を語らず日本人の社会生活の向上発展のために、たとえ一石一木でも必ず加えるような有用の人物を作りたい。

大内元総長は退任後の講演「法政大学への遺言」の中で、この願いについて、再度次のように強調されている。

「今日より30年のち50年のち、日本はいかなる問題をもつてありましようか。その問題がなんであるにせよ、わが日本は世界のうち立って、平和と民主主義を持って、世界のリーダーたる国にならなければなりません。その日本において、指導力を持つのはどういふ人間でなければならんでしようか。それは申すまでもなく、そのイデオロギーにおいて十分訓練されておるばかりでなく、さらにそれを実現する実力、人間としての労働力、技術、手腕においてすぐれたる人間でなければなりません。私がこういうことを申しますのは、この学園の理想として掲げた『われらの願い』が、それに通ずるからであり、今日、私が諸君と別れるにあたり、どうしても諸君、特に学生諸君に今一度それを諸君の覚悟として思い出していたいだきたいからであります。」

この大内元総長の言葉は、現在も輝きを失ってはいない。法政大学の精神は、多くの卒業生がこの言葉をしっかりと記憶し、それを実践することによって維持、発展すると考えている。

理工学部 創生科学科が開設

2011年4月、小金井質「自然」「人間」「知能」の分野をフィールドにおき、理工学部創生科学科を開設する。学科名称にある「創生」は、広範な「科学」領域に前進、展開、アドバンスすることを目指す。英語名称は「Department of Advanced Sciences」と称している。Sciencesは複

数形としてさまざまな分野を表現している。創生科学科では「科学の総合力を身に付けた人材のみならず、科学の立場から定せず、人間とその営みや知能についての教育を通じて育つ」を柱に、理系・文系を横断した「物理学・数学に基づく科学

的評価力、客観的判断力を武器として、「自然と社会の協調」「人間の知恵と心の豊かさ」を創造する人材を養成していく。具体的には、理系と文系を融合できる、技術系商社マンや大規模プロジェクトのコーディネーター、サイエンスライターの、科学解説員など、今までにないタイプのスペシャリストとして活躍することが期待される。

教育開発支援機構 初年度の成果

学士課程教育の質保証を図ることを目的として発足した教育開発支援機構は、FD推進センター、学習環境支援センターに、2010年4月から発足した市ヶ谷リベラルアーツセンターを加えた3センターを擁する機関である。3センター体制となった2010年度の成果を報告する。

FD推進センター 授業改善についての調査・助言を行うFD推進センターでは、FD推進プロジェクトとしてシンポジウムやワークショップなどを企画・実施している。開催数は年を追って増え、2010年度の企画は8件とな

り、内容も多様化し、教員だけでなく職員がプレゼンターに加わる企画も登場し好評を博した。また、昨年度発足した「関東圏FD連絡会」の参加校4大学の各学生に呼びかけ、大学を超えた学生・職員・教員の協同コミュニケーション活動を通して「授業改善」や「より良い学びの場」を考慮することを目的と

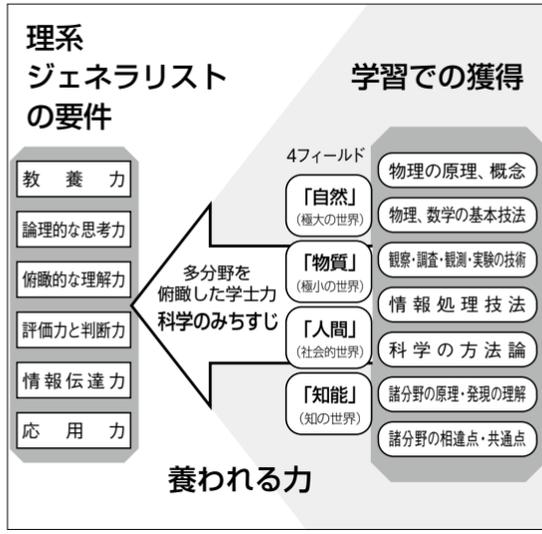
「探求」のフィールドが用意され、科学と技術の両面からのアプローチが可能となる。本学科のような理系教育を前面にする領域のニーズは潜在的に大きく、時代を先取りした試みとして期待される。

また、語学に力を入れるなど、社会で求められる情報発信力、コミュニケーション能力を高めることが可能な構成となっている。新学科と既存学科との連携により、理工学部の中でも

あり方を考える学習環境支援センターでは、学生のさまざまな相談や要求を聞いて対応する窓口や、利用可能なサービスについて学内の全施設を案内できるアドバイザーを養成し、ワンストップサービスの総合窓口として利用してもらう、といった具体的な案が検討段階に入っている。

2010年4月に新たに発足した、市ヶ谷地区6学部の教養教育についてのあり方を再検討し、その充実強化に向けた支援を目的とする市ヶ谷リベラルアーツセンターでは、2011年度の秋に、「自校教育」を市ヶ谷地区の基礎科目として開設すべく内容を編成中

が期待される。独自プロジェクトも企画し全学的な教育改善を支援する。教育開発支援機構の役割としては、3センターが互いに連携してソフト面とハード面、教員と職員、さらに学生をも含めた総合的な視野から各センターそれぞれ役割を果たせるように調整・審議すると同時に、センターが個別にはカバーできない課題について機構独自のプロジェクトとして推進していくことにある。共通カリキュラムの策定や初年度教育なども重要な課題として取り組みがスタートしており、本学の学士課程教育の充実に向けた諸問題を全学的に審議・調整する役割を今後も担っていく。



デザイン工学部 完成年度を迎え



建築・都市環境デザイン・システムデザインの3学科からなるデザイン工学部は、2007年に設立されて本年度に完成を迎え、一期生を社会に送り出す年となる。工学部の教員であった故大江宏教授設計による市ヶ谷田町校舎(旧62年館)は、(株)山下設計によ

りリノベーションされたもので、建物規模と比べて、廊下・階段室の豊かさは設計者の思想が見事に反映されている。成熟した社会において機能のみに重視したデザインに反省が求められ、人間を中心とした社会や環境に配慮したデザインが求められていることを背景に、本学部では専門知識をもとに多面的かつ横断的知識・理論を基盤に人間の感性に訴えるものづくりをする総合デザインを身に付けることを目指している。

そのために、まず入学経路が多様化した新生生の学習が、学部別にリストアップされているためテーマが共通する科目を一覧したり、互いに関連付けて履修計画を立てる、といったことが困難な状況にある。そこで、「環境」「国際協力」に参加する際には「環境」などといったキーワード別に他学部公開科目を分類し、緩やかに体系付けて学生に提示することが可能かどうかの調査や、具体的な提示方法の検討が行われている。

共通カリキュラムの策定や初年度教育なども重要な課題として取り組みがスタートしており、本学の学士課程教育の充実に向けた諸問題を全学的に審議・調整する役割を今後も担っていく。

指定航空従事者養成施設の認可を受けました



法政大学飛行訓練センターがこのたび、国土交通省の航空従事者養成施設の指定(指定養成施設の認可)を受けた。

法政大学は指定養成施設を運営するため2010年3月に「法政大学飛行訓練センター」を設置し、4月から自家用課程の指定養成施設(テストコース)の運営にあたってきた。

4月からテストコースで訓練を行ってきた航空操縦学専修の3年生の学生12人が、自家用操縦士のライセンスを取得するため、国土交通省航空局による実地試験を受け、全員が合格した。今回の国家試験合格により、法政大学は国土交通省から指定養成施設の認可を受けることになり、このたび増田壽男総長が国土交通省より航空従事者養成施設指定書の交付を受けた。

これにより今後は、最終技能審査を当施設の技能審査員により実施できる等、より効率的に高い能力の操縦士の養成が可能となる。今後、事業用、多発限定、計器飛行証明課程の訓練を順次開始し、それぞれの課程で指定養成施設の取得を計画している。航空操縦学専修では「日本の空で日本人によるパイロット育成プロジェクト」を「飛べるエンジニア」のコンセプトのもと、日本の航空業界を担う人材を育成していく。

次々に打ち出される大学院改革

大学院

2008年夏、「明日の法政を創る」審議会が充足。具体的には2011年4月から人文科学研究科が大学院法人法政大学が抱える課題解決に向け、さまざまに作業部会を設けている。

「大学院改革作業部会」も、一つの部会として立ち上がっている。その傘下に、「人文科学研究科」「社会科学」「自然科学」の三つの作業チームを配し、同作業部会と各作業チームとで、相互連携をとりながら本大学院の現状分析や今後の課題の洗い出し、また新規事業開拓の検討と具体化を行った。発足から約一年半の作業を経て、2010年4月に大学院改革作業部会より「明日の法政を創る」審議会に対し答

申を行っている。具体的には2011年4月から人文科学研究科が大学院法人法政大学が抱える課題解決に向け、さまざまに作業部会を設けている。

「大学院改革作業部会」も、一つの部会として立ち上がっている。その傘下に、「人文科学研究科」「社会科学」「自然科学」の三つの作業チームを配し、同作業部会と各作業チームとで、相互連携をとりながら本大学院の現状分析や今後の課題の洗い出し、また新規事業開拓の検討と具体化を行った。発足から約一年半の作業を経て、2010年4月に大学院改革作業部会より「明日の法政を創る」審議会に対し答

申を行っている。具体的には2011年4月から人文科学研究科が大学院法人法政大学が抱える課題解決に向け、さまざまに作業部会を設けている。

「大学院改革作業部会」も、一つの部会として立ち上がっている。その傘下に、「人文科学研究科」「社会科学」「自然科学」の三つの作業チームを配し、同作業部会と各作業チームとで、相互連携をとりながら本大学院の現状分析や今後の課題の洗い出し、また新規事業開拓の検討と具体化を行った。発足から約一年半の作業を経て、2010年4月に大学院改革作業部会より「明日の法政を創る」審議会に対し答

申を行っている。具体的には2011年4月から人文科学研究科が大学院法人法政大学が抱える課題解決に向け、さまざまに作業部会を設けている。

「大学院改革作業部会」も、一つの部会として立ち上がっている。その傘下に、「人文科学研究科」「社会科学」「自然科学」の三つの作業チームを配し、同作業部会と各作業チームとで、相互連携をとりながら本大学院の現状分析や今後の課題の洗い出し、また新規事業開拓の検討と具体化を行った。発足から約一年半の作業を経て、2010年4月に大学院改革作業部会より「明日の法政を創る」審議会に対し答

申を行っている。具体的には2011年4月から人文科学研究科が大学院法人法政大学が抱える課題解決に向け、さまざまに作業部会を設けている。

「大学院改革作業部会」も、一つの部会として立ち上がっている。その傘下に、「人文科学研究科」「社会科学」「自然科学」の三つの作業チームを配し、同作業部会と各作業チームとで、相互連携をとりながら本大学院の現状分析や今後の課題の洗い出し、また新規事業開拓の検討と具体化を行った。発足から約一年半の作業を経て、2010年4月に大学院改革作業部会より「明日の法政を創る」審議会に対し答

専門職大学院の今

法務研究科
イノベーション・マネジメント研究科
アカウンティング専攻

「法務研究科」

2004年の設置より、複雑化する現代社会の法律問題に対して、柔軟かつ適切に対応できる創造的応用力をもった人間性豊かな法曹の育成を目指している。

現在、その法曹となるための基本である基礎学力のより一層の涵養を図るため、2011年度からカリキュラム改編を行っている。また、来年度より意欲的かつ真摯に学ぶ優秀な学生への支援のため、奨学金制度を大幅に拡充強化した。

「イノベーション・マネジメント専攻」

日本初の1年制ビジネススクールとして創設され、今春設立7周年を迎える。創設以来、社会にイノベーションを起こす人材の育成を目的し、この春の修了予定者を含めると修了生数は2500名を超えようとしている。

「アカウンティング専攻」

2009年度に4期生を輩出し、修了生総数も145名となった。2010年9月にはOB会の設立準備会も開かれ、修了生26名の出席のもと正式にOB会が設立された。今後の修了生・教員・大学相互の密接な交流が期待される。

学生スタッフが活躍 文部科学省・学生支援GP採択事業 「学生の力」を活かした学生支援体制の構築 学生センター

本学の「学生の力」をいかした学生支援体制の構築が、2007年度文部科学省「学生支援GP」に採択された。学生支援GPとは、新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラムの中で、学生の人間性を高め、人間性豊かな社会人の育成・輩出を目指して実施されている。

本学の取り組みは法政PSC(ピア・サポート・コミュニケーション)。「学生が学生を支援する」をコンセプトとしたピア・サポート活動を展開、学生と大学(教職員)とが協働して取り組んでいる。

学生支援GP最終年度を迎え、本事業の経過報告とともにピア・サポートの可能性について述べる。

1. 「PSCサイクル」による循環型コミュニケーションを生み出したのか？

学生スタッフのきめ細かい対応が功を奏し、プログラムを実施するごとに「スタッフになってサポートしたい」という反響があった。また、学生が当日の運営を担う点について、参加者から「親しみやすい」「気軽に質問できる」といった感想が聞かれ、学生が関わることのメリットが十分に発揮できた。支援を受けた学生が支援する側に転じて

2. 「第3のコミュニティ」としての役割を果たしているか？

「他キャンパスの学生と触れ合えて刺激になる」「希望したゼミに落ちたのでプロジェクト活動に打ち込みたい」「編入でゼミやサークルに入っていない。出遅れ感を払拭したい」——学生スタッフへの加入動機はさまざまだが、これらを見ても第3の「コミュニティ」として十分に機能していると言える。

また、学生支援GP採択から3期の卒業生を輩出したが、卒業後も運営に関与して現役生の相談に応じている点は特筆に値する。ピア・サポートのコンセプトを十分に理解しているからこそのことで、真のサポートだと言える。

3. 「社会人基礎力」は身についたのか？

プロジェクト活動は、身近な問題の発掘・調査・交渉・実施・フィードバックの繰り返して、常に「実践」の連続である。その結果、学生の成長には目を見張るものがあった。この4年間、大半のスタッフが志望企業、志望業界に進路を決定したが、その一因となっていることを願いたい。

また、担当職員にとって

の感想が多数聞かれたが、それだけでも成功だと言えることができる。さらに驚くべきは、学生スタッフから正課教育へのサポートの提案があったことである。大学院生なら知っておきたい基礎教養講座では、数学や心理学といった正課教育で行われている科目について、学生提案のプログラムが実施された。自分が学ぶ専門分野を他学部の学生サポートに活かしたいなどの声があり、今後正課教育においてもピア・サポートの可能性は計り知れない。

学生スタッフからは「ピト」を展開していきたいと思っ

社会学部では読売新聞立川支局との共催による「連続市民講座を好評開講中」

2月19日(土) 滝沢カレン教授「日米コミュニケーション・スタイルの暗黙のルール」

3月19日(土) 金原瑞人教授「英語から日本語へつながる」と縁(えにし)〈つながり〉を求めて 言葉・地域・地球・自然を総合テーマとして本学社会学部教員による講義を展開、4月以降、これまで8人の教員が講義を行った。地域の人々の関心は高く、毎回多くの参加者を集めている。

今後の開催予定は、次の通り。
※駐車場利用不可

現代福祉学部で初めての試みとなる「自治体推薦首長交流会」が10月28日、同学部棟で行われた。

現代福祉学部では2006年度より自治体推薦入試(まちづくりチャレンジ入試)を実施している。この入試は、地域福祉や地域づくり、環境問題など幅広い意味での「まちづくり」に関心を持ち、将来のような分野で活躍しようという志をもつ高校生たちを対象に、まちづくりに優れた実績を持つ自治体首長の推薦により入学を許可する制度。

この日は、同制度に参加

2010年10月2日、同じく「ピア・サポート」をコンセプトに2007年度学生支援GPに採択された関西大学との共催で、第2回学生支援GP連続シンポジウム「ピア・サポートの継続性と可能性」が、法政大学市ヶ谷キャンパス外濠校舎で行われた。

第一部では事例報告が行われ、両校で活躍する学生スタッフより日ごろの活動について趣向を凝らした紹介があった。第二部では「ピア・サポートの継続性と可能性」をテーマにパネルディスカッションが行われた。コーディネーター・司会を木原章市ヶ谷ボランティアセンター長(経営学部教授)が務め、法政大学からは原伸子多摩学生センター長(経済学部教授)、土屋貴之(学生センター市ヶ谷学生生活課職員)、鎌田紫織さん(文学部英文学科4年、課外教養プログラムプロジェクトリーダー)の3人、関西大学からは大島薫学生センター副所長(文学部教授)、早川亮馬氏(学生サービス事務局学生生活支援グループ)、上野俊行さん(商学部商学科4年、ピア・コミュニティ運営本部副本部長)の3人がパネリストとして登壇した。写真は両校関係者による懇親会の様子。



2010年10月2日、同じく「ピア・サポート」をコンセプトに2007年度学生支援GPに採択された関西大学との共催で、第2回学生支援GP連続シンポジウム「ピア・サポートの継続性と可能性」が、法政大学市ヶ谷キャンパス外濠校舎で行われた。

第一部では事例報告が行われ、両校で活躍する学生スタッフより日ごろの活動について趣向を凝らした紹介があった。第二部では「ピア・サポートの継続性と可能性」をテーマにパネルディスカッションが行われた。コーディネーター・司会を木原章市ヶ谷ボランティアセンター長(経営学部教授)が務め、法政大学からは原伸子多摩学生センター長(経済学部教授)、土屋貴之(学生センター市ヶ谷学生生活課職員)、鎌田紫織さん(文学部英文学科4年、課外教養プログラムプロジェクトリーダー)の3人、関西大学からは大島薫学生センター副所長(文学部教授)、早川亮馬氏(学生サービス事務局学生生活支援グループ)、上野俊行さん(商学部商学科4年、ピア・コミュニティ運営本部副本部長)の3人がパネリストとして登壇した。写真は両校関係者による懇親会の様子。

ボアソナード・梅謙次郎没後100年記念

法政大学草創期とボアソナード・梅謙次郎展



ボアソナード胸像原形。1934(昭和9)年6月、日仏のボアソナード教授記念事業委員会により、パリ法科大学のボアソナード胸像が設置されたが、同年12月にこの原形が在パリ日本大使館を通じて本学に寄贈された。1953(昭和28)年12月、ボアソナード来日80周年を記念し、この原形をもとに2体のブロンズ像が制作され、本学と最高裁判所に置かれている。



馬袋鶴之助の法服。馬袋は1887(明治20)年に東京法学校を卒業し、兵庫県の豊岡で弁護士として活動した。馬袋が残した資料(明治の一弁護士訴訟事件簿、出納帳、日誌等)は馬袋文庫として本学ボアソナード記念現代法研究所に保管されている。

教頭ボアソナード、主幹薩埵正邦の署名が入った「帝国大学特別監督私立東京法学校」の卒業証



ボアソナード肖像画(飯田熊蔵画・1896年・油彩カンバス)

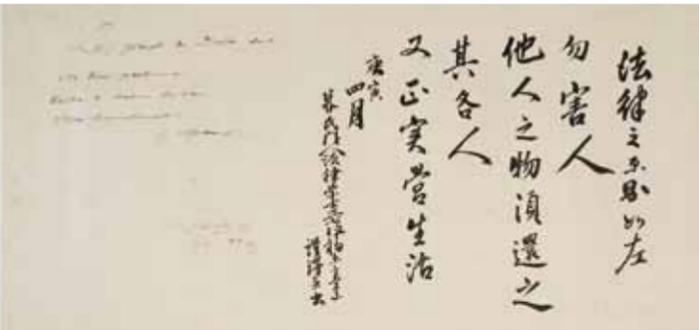
和仏法律学校の卒業証。ボアソナードのサインを見ることができる。



堀家文書(和歌山県立文書館寄託資料)中の堀正壽が残したボアソナードの「民法原理」講義筆記ノート(1892年)の一部。表紙の裏に当時の時間割が見られる。



堀家文書中の堀正壽の日記。明治24年9月11日の日記には「本日仏校へ入学」と、和仏法律学校へ入学した記述が見られる。



ボアソナード自筆のウルピアヌス(古代ローマの法学者)の法律格言とその翻訳文(福原直道訳)。ボアソナードに関しては、偶然目撃した傍聴に驚いて司法卿に抗議し、傍聴禁止の建白書を提出したのは有名な話だが、この時の司法卿宛の書簡と建白書の原文写しを含む、明治政府からの法律関係の質問に対するボアソナードの回答が筆写された「ボアソナード氏との交信録」(1978年に「ボアソナード答問録」として邦訳付きで法政大学出版局より復刊)や、署名が入った書籍なども展示された。

本学創立130周年を迎えた今年は、ボアソナード、梅謙次郎の没後100年にあたる。これを記念して、記念式典が行われた9月26日から11月14日の間、関連する貴重資料を展示した「法政大学草創期とボアソナード・梅謙次郎展」、および歴史的な校舎やキャンパス写真をパネル展示した「法政大学史写真展」が外濠校舎の展示スペースで行われた。これらの中から主なものを紹介しながら、本学草創期にボアソナード、梅が果たした役割の大きさを振り返ってみたい。

東京法学社の設立とその創立者たち

法政大学の歴史は、弁護士養成を目的とした1880(明治13)年4月の「東京法学社」の設立にさかのぼる。東京・駿河台に校舎を構えた東京法学社は、法教育を担う講法局と、田正忠、橋本勝三郎(はらもと かつさぶろう)、大原謙三郎らを講師に迎えて開校した。運営は、代言局を伊藤修と金丸鉄(かねまる まがね)が担当し、講法局は薩埵正邦を中心に堀田正忠、橋本勝三郎(はらもと かつさぶろう)らで構成された。また、東京法学社設立の際、資金面や経営ノウハウの相談に乗っていたといわれるのが、民間の法律家養成機関の先駆けとなる「法律学舎」を開校(1875年)した元田直(もとただなお)だ。先づ6人に元田を加えた7人が、東京法学社の設立に大きく関わっていたとみられる。

日本近代法の礎・ボアソナード ● 東京法学校・和仏法律学校を無償で支えた12年間

ボアソナード(1825~1910)は、明治政府の法律顧問として来日した、いわゆるお雇い外国人の一人。当時の日本にとって急務の課題だった不平等条約の撤廃のため、国内法の整備に尽力し日本近代法の礎(いしずえ)を築いた。フランス・ヴァンセンヌ市で生まれたボアソナードは、パリ大学文科および法科を卒業し、パリ大学法科大学で教壇に立ち、1864年に法科大学教授資格(アグレグシエ)試験に首席で合格した。グルノーブル法科大学でアグレグシエとして講義を担当していた時、日本政府が鮫島尚信駐仏公使を通して法学教育と法典編纂のために来日を懇願した。はじめ難色を示したが受諾し、1873(明治6)年に来日した。この時、契約期間は3カ年だったが、1892年まで更新した。ボアソナードは、東京法学校(1881年開校)と和仏法律学校(1886年開校)を無償で支えた。1881(明治14)年5月、東京法学校の講法局が独立して「東京法学校」が開校された。当時の「東京日日新聞」(5月28日付)掲載の広告には、「仏国法律大博士ボアソナード君爾來每週一回国法契約講義ヲセラル」とあり、東京法学校は創立時からボアソナードが教壇に立つことと、東京法学校は文部大臣の直接管理下に置かれるようになった。1883(明治16)年に教員を増員、この時ボアソナードに懇願して教頭を引き受けてもらった。1886(明治19)年8月、文部大臣森有礼から私立法律学校特別監督法規が帝国大学に布達され、東京法学校は「帝国大学特別監督」と呼ばれる帝国大学総長の特別監督下に置かれることになった。本学には、教頭・ボアソナード、主幹・薩埵正邦の署名が入った帝国大学特別監督私立東京法学校」の卒業証が残されている。1888(明治21)年5月に特別認可

堀家文書で発見された和仏法律学校の時間割

今回の展示資料の中で、とりわけ貴重なのが、このボアソナードの「民法原理」講義を筆記したノートと日記だ。和仏法律学校の生徒で和歌山県出身の堀正壽が残したもので、堀家から和歌山県立文書館に寄託された「堀家文書」に含まれ、

● 明治25年度和仏法律学校時間割表 ●

Table with columns for year (学年), month (月), and days of the week (火, 水, 木, 金, 土). It lists various law courses and lecturers for each day.

堀正壽の講義ノートにあった時間割から作成した、1892明治25年の和仏法律学校の時間割。当時の開講科目とその担当者がこれだけ詳細にわかる資料は貴重だ。

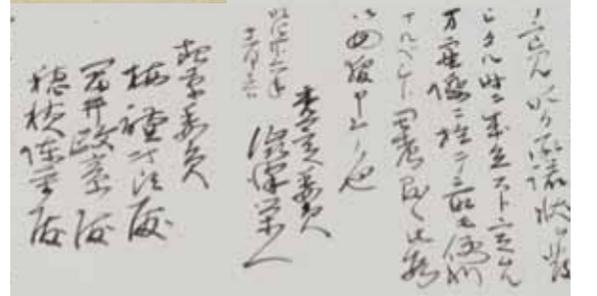
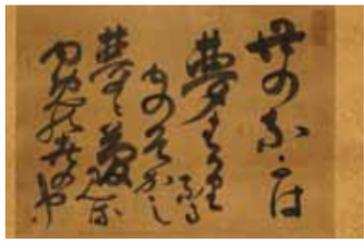


*和歌山県立文庫所蔵「堀家文書」(明治25年12月卒業堀正壽氏筆)

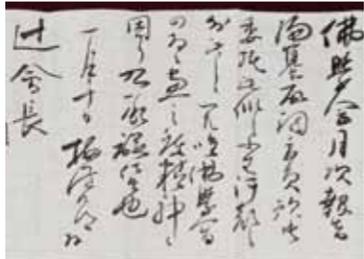
梅謙次郎肖像画 (中村勝治郎画・明治期・油彩カンバス)



くつろいだ時に書いたといわれる梅の書「世のなかは夢ばかりなるものぞかし夢に夢見るゆめの世の中」



明治政府の法典調査会査定委員を務める渋沢栄一が、起草委員の梅謙次郎、富井政章、穂積陳重に宛てた書簡。商取引の慣習に従った法案づくりが合理的だという意見を述べたもので、初公開となる貴重資料。



明治24年1月10日、梅謙次郎が仏学会会長の辻新次から仏学会月次報告編纂取調委員預を委託され、承諾したもの。辻は和仏法律学校設立時に理事を務めた。

● 民法の父・梅謙次郎 ● 国の要職に従事しながら和仏法律学校初代総理として尽力

梅謙次郎(1860)は、松江(1910)は、松江藩の侍医の次男として生まれ、1874(明治7)年に一家で上京、1880(明治13)年に東京外国語学校仏語科を最優等の成績で卒業した。1884(明治17)年に司法省法学校を首席で卒業、司法省御用掛から東京大学法学部教員となった85年に文部省の命により欧州留学。仏・リヨン大学、独・ベルリン大学に学び、1890(明治23)年に帰国した。

同様に帝国大学法科大学教授となるが、その身分のまま、同年に和仏法律学校の学監兼講師(無報酬)となった。その後、農商務省参事官、民法・商法施行取調委員を経て、1893(明治26)年4月、法典調査会主査委員となり、民法・商法などの立案・起草に従事した。この時、梅もまた民法起草委員となつたのが、薩摩の義弟で後に和仏法律学校校長となる富井政章と、英吉利法律学校(現中央大学)に宛てた書簡が初展示された。当時、法典調査会査定委員を務めていた渋沢が、民法・商法の起草にあたっては、実際の

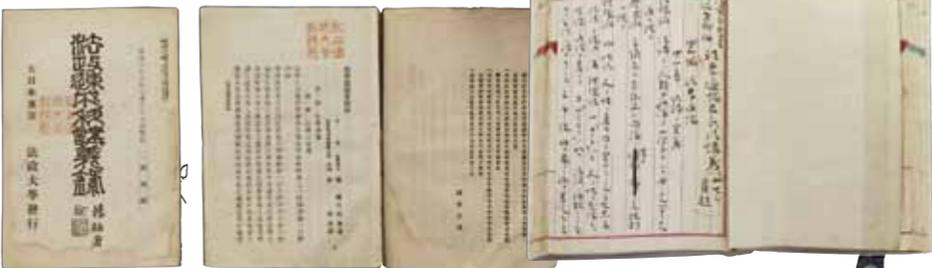
商取引の慣例に従って取引の承諾状を発行した時点で契約が成立すると定めたとのが最も合理的であるという意見を述べたもの。実際の法律はそのとおりになってきたといわれ、今後の研究が待たれる貴重資料の一つだ。

一流の教授陣を集めた清国留学生法政速成科 本書における梅の業績の一つが、「清国留学生法政速成科」の創設である。日清戦争後、アジア諸国から日本への留学生が急増した。このため、1904(明治37)年4月、和仏法律学校専任理事・梅謙次郎の名で、法政速成科設置が申請され、認可された。

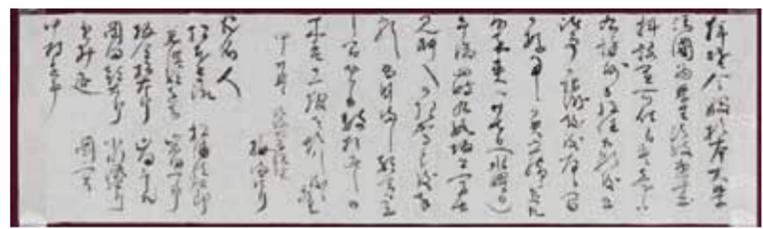
法政速成科設置に際して、講師を依頼するため、松本蒸治東京帝国大学助教授、美濃部達吉東京帝国大学教授ら11人の法学・政治学の専門家に協議のための会合に出席して、予科を新設した。法政速成科には、04年入学の第一班から06年入学の第五班まで2355人が在籍、うち986人が卒業し、08年に廃止された。卒業生や在籍者の中には、胡漢民、汪兆銘、宋教仁、陳天華など、後

延長)。中国語の通訳付を、漢文訳の講義録を用いて法学や行政学、経済学などの授業が行われた。1907(明治40)年には普通学の修養を目的とする普通科、ならびに予科を新設した。この事業については、日本による韓国支配という負の歴史を前面に出した評価がなされる一方、韓国裁判制度および土地制度の近代化への貢献を評価すべきとする意見に二分されている。

致が、空席となっていた大学代表者に就任。この時から総理の名称を学長に改めた。以後、18年間わたる松室致学長時代が始まる。1920(大正9)年4月、和仏法律学校法政大学は大学令による旧制大学となり、法政大学と改称した。



法政速成科講義録(左の2点)と、梅謙次郎による「清国留学生法政速成科及民法講義備忘録」



梅謙次郎が松本蒸治、美濃部達吉ら11人の学者に宛てた書簡。清国留学生法政速成科の設置にあたって講師要請および諸事協議のため会合を開こうと出席の可否をたずねたもの。

「法政大学史写真展」の展示写真から戦前の法政大学(一部)



航空部:1931(昭和6)年 陸上部:1927(昭和2)年

インフラからサービスへ

net2010スタート

2010年10月より全学に当たるサポート窓口を設け、利用者の相談に乗り、情報ネットワークが更新され、net2010の本格運用がスタートした。97年に全学ネットワークが導入されてから、3、4年ごとに更新されてきた全学の情報基盤は、これにより第5世代に入った。

インターネットの急激な普及期にあたっていた全学ネットワーク初期の時代には、年々拡大する利用率と、やりとりされる情報量の拡大に対応し、量的な充足を実現することが何よりも優先された。

06年に導入された第4世代から、学内でも、また社会全体としてもネットワーク環境は量的に充足段階に入り、それを前提としてネットワーク上で提供されるサービス内容の充実や、安全性、堅牢性など、情報基盤の質がこれまで以上に重視される時期を迎えた。

第5世代にあたるnet2010では、まずサポート体制の充実を心がけた。学内におけるネットワーク利用の幅は着実に広がっており、総合情報センターが運用を担当する全学ネットワーク上には、さまざまな部門が運用する情報サービスが多数ある。各部門が利用者サポートの対応を担っているが、一般利用者にとって問題がどこにあるかを特定することは難しい。

この問題を解決するため、net2010で総合受付と呼ばれる安全確保のためのネットワーク上の関門を設けるなどの対応をとってきたが、今回はそれに加え、インターネット上の住所にあたるIPアドレスについて学外と学内を基本的に切り離す方式を導入することとした。学外からの悪意をもったネットワーク攻撃などに対し、より安心できる環境になる。ただし、USBメモリを介したウイルス感染や、利用者が意図してダウンロードしたファイルからのリスクなど、この方式でもセキュリティ上の脅威がすべてなくなるわけではない。パソコンなどのセキュリティについては今後も油断せずに各自で取り組むこととなる。

2009年8月に発足したサステイナビリティ研究教育機構は、大学院レベルにおける教育と研究を統合し、質的な向上を図るために設立された新しい拠点である。

サステイナビリティ(持続可能性)は、21世紀の人類社会の進むべき方向を示すキーワードであり、環境・経済・福祉のいずれの領域においても達成されるべき課題である。本機構は広義のサステイナビリティの探求をめざすことを目的とし、本機構では、多数の大学

告会、サステイナビリティに関する有力な外国語文献の翻訳・刊行などがある。

また、文書系、映像系の双方をカバーした「環境アーカイブ」の形成(多摩キャンパス)や、国際的協力ネットワークを背景にした英語版の『世界環境年表』(A World Environmental Chronology)の公刊準備にも取り組んでおり、本学大学院でも、若手研究者の育成に資するさまざまな制度改革への取り組みが国際交流の強化を軸に進んでいるが、それとの相乗効果も活かしつつ、本機構の業績を積み上げていく。

学生が取り組む環境活動の推進

環境センター



「学生環境サポーター制度」では、具体的に計画作成・実践を学生自ら行うことも副次的な目的としている。まず、最初の企画として、7月下旬に市ヶ谷キャンパスで「打ち水in法政」が実施された。打ち水は毎年環境センターで実施していたが、今年は学生からの要望で主体を学生に移し実施し、結果を環境センターホームページや本学で11月に実施された環境展で発表を行った。

「学生環境サポーター制度」では、具体的に計画作成・実践を学生自ら行うことも副次的な目的としている。まず、最初の企画として、7月下旬に市ヶ谷キャンパスで「打ち水in法政」が実施された。打ち水は毎年環境センターで実施していたが、今年は学生からの要望で主体を学生に移し実施し、結果を環境センターホームページや本学で11月に実施された環境展で発表を行った。

競争的資金の積極的獲得状況

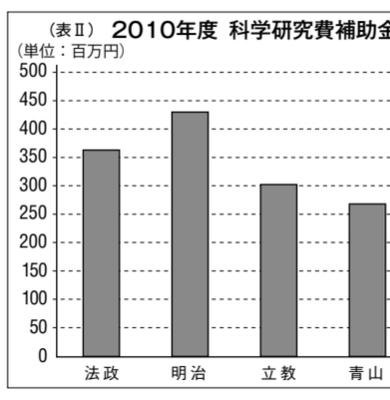
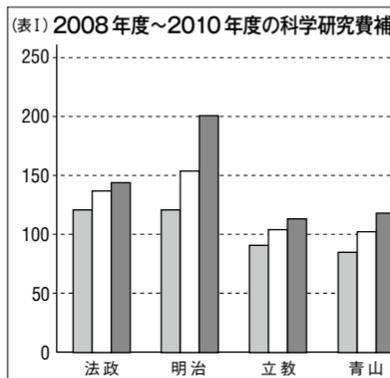
研究開発センター

競争的資金の概要

国は、限られた財政資金の下で高等教育機関が切磋琢磨しながら教育研究の質向上を図り、わが国の国際競争力を高めるべく、国公立の大学間を通じた競争的資金に、科学的競争的資金に、科学研究費補助金(すべの学問分野において、基礎から応用まであらゆる学術研究を支援)の研究補助金をはじめ、「大学教育・学生支援事業【テーマA】大学教育推進プログラム」「大学教育・学生支援事業【テーマB】学生支援推進事業」で08年度以降増加傾向と

は3億6313.5万円(間接経費含む)であった。金額では09年度比57.5%の減少となったものの、首都圏同規模他私大(医学部を持つ大学および早大を除く)では、明治大学に続き2位の位置に上り、同補助金の増加を図るため、今年度から学部長会議、教授会などでセンターを育てる3大ステップが「大学生の就業力育成支援事業」に採択された。期間は5年間。

「科学研究費補助金」の国内最大の競争的資金である科学研究費補助金は競争的資金の4割を占め、各大学はその資金獲得にしのぎを削っている。



「学生環境サポーター制度」では、具体的に計画作成・実践を学生自ら行うことも副次的な目的としている。まず、最初の企画として、7月下旬に市ヶ谷キャンパスで「打ち水in法政」が実施された。打ち水は毎年環境センターで実施していたが、今年は学生からの要望で主体を学生に移し実施し、結果を環境センターホームページや本学で11月に実施された環境展で発表を行った。

「学生環境サポーター制度」では、具体的に計画作成・実践を学生自ら行うことも副次的な目的としている。まず、最初の企画として、7月下旬に市ヶ谷キャンパスで「打ち水in法政」が実施された。打ち水は毎年環境センターで実施していたが、今年は学生からの要望で主体を学生に移し実施し、結果を環境センターホームページや本学で11月に実施された環境展で発表を行った。

日問 日訪

常に新たな挑戦を続ける 軍鶏鍋の名店「玉ひで」主人



玉ひで主人 山田耕之亮氏

Profile
 やまだ・こうのすけ
 1961年、東京・人形町の「玉ひで」の長男として生まれる。法政二高から法政大学社会学部応用経済学科卒業。日本料理店「玄治店 濱田家」での修行を経て、「玉ひで」入社。1998年に8代目を継承した。創業250年の伝統を誇り「親子丼の元祖」でもある老舗の技を守りつつ、明治期の複製版メニューやサークルKサンクスとコンビニ弁当の共同開発など、さまざまな挑戦を続けている。2010年10月には、羽田空港ビル内に、初の支店がオープン。

創業250年の軍鶏鍋 つけていたのですが、少し前に読んだ本の内容をすっかり忘れてしまっただけで、2年次以降はさすがにペースが落ちました。それが、年々100冊は読んでおり、学生生活はとも充実感がありましたね。

父が法政大学出身で、バスケットボール部の監督を務めたこともある関係で、自然と法政志望になりました。妻も息子も法政で、親族にも法政の出身者が多く、家の中でいつでも校歌が歌えるのです(笑)。

年間350冊を読破

山田氏は大学時代、推理小説研究会に所属した。西村京太郎の小説のファンだったから。ところが、週一回、課題本を読んで討論していると、周囲の学生の読書量に圧倒された。話題についていけないことも少なくなかった。

「そこで、大学1年生の時、年間約350冊を読破しました。『読書ノート』を意識が強かった。その意識

は、老舗の鶏料理店を継ぐことを宿命づけられた立場だったからこそ身に付いたものだ」と語る。

「当時、職業選択の自由を歌うCMソングが流行していましたが、それでも、その自由が与えられていない私は、その歌がとも嫌いでした。とはいえ、店を継ぐことが嫌だったわけでは



「父は、親子丼は庶民の食べ物なのだから、安価で提供すべきという考えを持っており、40年間、6000円から10000円の価格を貫きました。けれども、当然利益はなかったことから、従業員の間に『食べさせてあげている』という、いわゆる『接客態度に問題が生じていたのです。そこで私は、従業員の再教育を行うことにし、店舗の改装を行うなど、約8年をかけて価格を8000円から19000円に変更したのです。その分、親子丼の元祖の名に恥じない最高品質のものをお客さまに提供しようと考えたのです。それによって、以前より確実にお客さまは増えており、この選択は間違っていないように変えていく』と表現するように、そうした柔軟性が、250年間の挑戦も視野に入れている。山田氏が「変わらないように変える」

「これまでの『玉ひで』は、ランチタイムの行列に象徴される繁盛店と

の親子丼の価格だ。『父は、親子丼は庶民の食べ物なのだから、安価で提供すべきという考えを持っており、40年間、6000円から10000円の価格を貫きました。けれども、当然利益はなかったことから、従業員の間に『食べさせてあげている』という、いわゆる『接客態度に問題が生じていたのです。そこで私は、従業員の再教育を行うことにし、店舗の改装を行うなど、約8年をかけて価格を8000円から19000円に変更したのです。その分、親子丼の元祖の名に恥じない最高品質のものをお客さまに提供しようと考えたのです。それによって、以前より確実にお客さまは増えており、この選択は間違っていないように変えていく』と表現するように、そうした柔軟性が、250年間の挑戦も視野に入れている。山田氏が「変わらないように変える」

キャリアアセンタールのサポート

学生の就職状況

求人状況は、2010年3月卒業生から一気に下降しはじめた。求人倍率の平均値は、2009年3月卒業生が2.14倍、2010年3月卒業生が1.62倍、2011年3月卒業生が1.28倍である倍率はリクルートワークス研究所の求人倍率調査にもとづく。

本学学生もこの影響を受けて、2010年3月卒業生の就職決定率は96.5%（前年比マイナスイク）(前年比マイナス3.9ポイント)、東証一部上場企業への就職率は24.9%（前年比マイナス3.4ポイント）、理系が33.4%（前年比マイナス12.5ポイント）と苦戦であった。他方で、地方公務員内定者数は274人（前年比48人増）、学校教員内定者数は29人（前年比10人増）と増加した。

2011年3月卒業生の内定状況

2011年3月卒業生においても厳しい状況は続いており、10月1日現在でキャリアセンターが行った調査によれば、内定保有率は71.8%（前年同月比マイナスイク）(前年同月比マイナスイク)である。内定をとれない学生をひとりでも少なくするために、キャリアセンターは、4年生向けの個別相談、求人情報の携帯電話への送信などのサポートを続けることにしている。

新しい取り組み

本学が単独で行う就職支援だけでなく、明治大学・中央大学・日本女子大学と連携して、10月1日現在でキャリアセンターが行った調査によれば、内定保有率は71.8%（前年同月比マイナスイク）(前年同月比マイナスイク)である。内定をとれない学生をひとりでも少なくするために、キャリアセンターは、4年生向けの個別相談、求人情報の携帯電話への送信などのサポートを続けることにしている。

難関資格試験の合格状況

難関資格試験・採用試験とされる国家公務員一種採用試験、公認会計士試験、司法試験の今年度の採用結果が判明した。

国家公務員一種採用試験には7人が合格した(既卒生・大学院生を含む)。公認会計士は、公認会計士・監査審査会が出身大学別に合格者を発表していないため、例年、集計に苦労しているが、2010年12月1日時点で17人の本学関係者の合格が判明している。このうち9人が本学会計大学院アカウンティングスクール)の大学院生・修了生である(最新の本学関係者の合格判明数は法政大学ホームページに掲載されている)。



9社の協力を得て7月に開催し、本学の参加者数739人のうち、説明会出席企業への受験者数は297人で、内定者数15人という結果につながった。

2011年4月から、従来からある専門学校の公務員講座を低価格で利用できるサービスのほかに、学内インナースクールを立ち上げ、本格的な公務員人材育成を開始する。インナースクールには、公務員コースのみならず法職コースを



谷で盛大に行われた写真。

「最新の本学関係者の合格判明数は法政大学ホームページに掲載されている」

昨夏の夏休みの課外活動は熱中症対策に腐心した。主な戦績はゴルフ部が日本ジュニアゴルフ選手権出場。高校音楽部は東京都代表として南関東地区軽音楽コンテストに出場し見事グランプリを受賞した。またフランスバンド会が東京都高等学校吹奏楽コンクールA組(大編成の部)において銀賞を獲得した。チャリティー委員会が団結を呼びかけ、各クラス演劇やダンスを披露し生徒自身成長した実感を味わった。高校生は新しい文化の創造をめざし、光を駆使したダンスなど独自の工夫も見られた。ドイツのギムナジウムから女子生徒6人が来校し異文化理解のよい機会に なっている。

10月には教育刷新会議の建議を受けて学校の方針について保護者説明会が行われ、11月には高校3年生に対して説明と懇談が行われた。教育再生に向けて、生徒、保護者、教職員三者による学校づくりを目指し取り組んでいるところである。

新しい文化の創造をめざし、光を駆使したダンスなど独自の工夫も見られた。ドイツのギムナジウムから女子生徒6人が来校し異文化理解のよい機会に なっている。

10月には教育刷新会議の建議を受けて学校の方針について保護者説明会が行われ、11月には高校3年生に対して説明と懇談が行われた。教育再生に向けて、生徒、保護者、教職員三者による学校づくりを目指し取り組んでいるところである。

「韓国日本近代学会」第22回国際学術大会の総会で、文学部哲学科の牧野英二教授が同学会功労賞を受賞した。牧野教授は、同学会に2005年から参加し、翌年には韓国・国立済州大学での大会で基調講演を行うなど学会運営にも積極的に協力してきた。

また昨年は、牧野教授の単著や編集委員を務めた事典などのハンガリー語訳が韓国で出版され、本年2月には同学会の常務理事に選出された。こうした学術国際交流事業および発展のために献身的に長年寄与してきた功績が認められた。

短 信

二中高は、学習と自主活動の両方を重要な柱としている。生徒会、部、水泳部、ソフトテニス部、ハトが相まって、生徒たちの持つ潜在能力が引き出される。活動、部・クラブ活動では、目標を達成し、自己を統御して困難を克服する力を養うことができている。こうして形成されるリーダーシップや組織力、あるいは自分の役割を認識し組織に貢献する態度などは、クラスにも還元される。今年度は中学野球部が川崎市の新人戦で優勝し、高校バスケット

情報科学部の劉教授がBCSから「Professional Fellowship」を授与された。2010年6月、情報科学部の劉少英教授に、英国コンピュータ学会(略称:BCS)から「Professional Fellowship」が授与された。劉教授の「SOF」仕様記述言語と形式工手法の研究が評価されたもので、日本では初の授与となった。

「市ヶ谷図書館ラニーング」が2010年10月、富士見坂校舎1Fにオープンした。ラニーングコモンズには、PC・プロジェクタ等の設備や可動式の机があり、図書館の本や情報資源を利用して、学習・プレゼン準備などを行うことができる。大学院生の学習アドバイザーを配置し、レポートや論文の書き方などの相談にも対応している。

付 属 校

灼熱の夏休みが明け、秋の気配がもたらした感じられない9月、女子高生たちはどこどなく浮き足立っていた。それをわに、またある者は大量の資料を抱えて会議室へと駆け込んでいく。そして中旬以降、教室の片隅に積み重ねられていた段ボールの数が日まに増えていく。放課後、クラスに生徒が居残ったままさまざまなオプジェが創りだす。自主的に取り組む、通常の授業や特別講座などの研

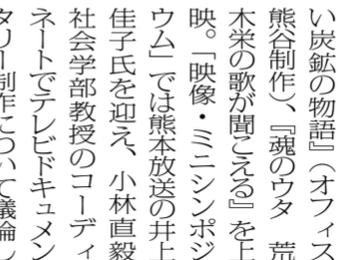
法学部の森教授が日本アメリカ学会の清水博賞受賞。2010年6月、法学部国際政治学科の森聡教授に、アメリカ学会から第15回清水博賞が授与された。受賞作品『ヴェトナム戦争

増田総長が「大学トップマネジメントフォーラム」に参加。朝日新聞社主催の「大学TOPマネジメントフォーラム2010」が、11月14日、港区港南のザ・グランドホールで開催された。7回目となる今回は「大学からのマネージャークラスの時代、トップ自ら語る大学の魅力とは」というテーマで本学の増田総



後援会寄贈の大型バス

後援会の厚意により寄贈されたもので、キャンパス内の輸送体制が充実した。



「向坂逸郎と三池争議」イベントを開催

大原社会問題研究所は、『日本労働年鑑』第80集の刊行、三井三池争議50周年、向坂逸郎記念国際交流会館の竣工を記念し、10月に複合イベント「向坂逸郎と三池争議」を開催した。「展示会」では三池争議や向坂逸郎の関連資料を展示。マルクスのサインのある『資本論』初版本なども特別出展した。



「市ヶ谷図書館ラニーング」が2010年10月に都内で開催された

まじまじ深まる「リーディング・ユニバーシティ」法政「募金」

「リーディング・ユニバーシティ」法政「募金」募金

法政大学では、未来社会を定まらかり、教育・研究活動を見据え、21世紀に入り、動の充実に大きく寄与するキャリアデザイン学部、デザイン工学部、理工学部、生命科学部(GIS)グローバル教養学部)そしてスポーツ健康学部を創設し、現在15学部、14研究科、3専門職大学院を擁する総合大学として社会から注目を集める大学となりました。

【ご寄付の用途を指定できます】

- ①教育とキャリアクリエーション
- ②専門職大学院の拡充
- ③先端的研究及び国際的研究活動
- ④スポーツ振興
- ⑤付属中高と大学の一貫教育
- ⑥奨学金

【10万円以上の寄付には、記念品を贈呈します】

10万円以上のご寄付をいただいた方には、記念品を贈呈いたします。また、個人さままで50万円以上、法人さままで100万円以上のご寄付をいただいた際には、あわせて法政大学総長より感謝状を贈呈させていただきます。

【ご寄付の用途を指定できます】

【寄付利用の一例(2009年度)】

2006年から取り組んでおります「リーディング・ユニバーシティ」法政「募金」で「奨学金」を指定いただいた資金により、650万円を超える奨学金を学生たちへ給付することができました。

遺贈による寄付制度について

本学では、教育・研究活動の充実を図るため、ご遺言により社会貢献をしたいとお考えの方々の篤志を広く受け入れるために「遺贈

「募金活動協力団体に對する活動支援金」について

募金活動に貢献した団体に対し、活動経費の一部を支援します。

対象団体は、校友連合会の本部および支部、学校法人法政大学の発展・充実のため、または卒業生の相互親睦のために組織され、継続的な活動を行っている団体です。

詳細につきましては、オレンジネット校友課までお問い合わせください。

法政フェア in 市ヶ谷 キャンパスを開催

2010年9月26日、秋晴れのもと、市ヶ谷キャンパスで「法政フェア in 市ヶ谷」が開催され、1600人を超える卒業生やそのご家族の皆さまにご来場いただきました。



法政大学応援団によるデモンストラクションが行われると、会場は大いに盛り上がりました。



ソラン、ミュージックショー、ミニ茶会、美術作品展示など、現役の学生たちによる発表が行われました。

今回の法政フェアでは、「家族連れ」の来場が最も多かったことが挙げられました。

「大学へ遊びに行こう!」をキャッチフレーズにした法政フェアでしたが、天候にも恵まれ、多くの卒業生やそのご家族の皆さまにお楽しみいただくことができ、結果として多くの方々に満足いただけるイベントになりました。



次回も多くの皆さまのご来場をお待ちしております。

さらに、現役の学生スタッフによるキャンパスツアーでは、後輩からの説明を楽しみながら、それぞれの学生時代を懐かしんでいらっしやいました。

そのほか、ご家族やご友人とスタンパラリーに参加し楽しまれている光景が見受けられ、ゴールの抽選会場では、折りたたみ自転車やPodといった豪華景品が当選した皆さまで大変盛り上がりしました。

また、神楽坂オリジナルワインや法政オリジナル味のペコちゃん焼きなど、地域の皆さまのご協力により、飲食コーナーも大変な賑わいをみせました。

「地域の方々の」伝統芸能を鑑賞する集いを開催

11月13日、第8回法政大学「地域の方々の」伝統芸能を鑑賞する集いを外灘校舎の薩埵ホールで開催しました。

今回は「雅楽 悠久の響きを現在に」と題し、薩埵ホールに古来より伝わる雅楽の悠久の響きを包まれた2時間となった。



卒業生にかかわる 個人情報利用目的

本学は、教育機関として、多くの個人情報を取り扱っており、個人情報保護法(2005年4月全面施行)以前から、その重要性にかんがみ、大学が独自に定めた「個人情報保護規程」などの学内規程の下で保護・管理の徹底を図ってきた。

また2005年4月に「法政大学プライバシーポリシー」を策定した。今後とも学内体制や規程の運用については、法令改正、社会情勢の変化、監査結果などに応じて継続的に改善し、本学ホームページや広報誌・紙で順次掲載していく。

- ① 大学からの広報誌・紙の送付および大学の催し物などを案内するため。
- ② 大学や子会社から講座の紹介などのDMを発送するため。
- ③ 卒業生データベースを管理し、統計データなどを作成するため。
- ④ 図書館利用資格の確認および連絡などのため。
- ⑤ 本学が発行する広報誌・紙に著名卒業生(出身者を含む)を掲載するため(政界、
- ⑥ 法政オレンジCAM P U SカードのPRおよび会員サービス実施のため。
- ⑦ 卒業生組織(本学公認団体に限る)からの開示請求に応えるため。
- ⑧ 後援会組織からの開示請求に応えるため。
- ⑨ 卒業生(個人)からの開示請求に応えるため(ただし理由が妥当なものに限る)。
- ⑩ 就職関係情報の管理のため。
- ⑪ 選挙において立候補者(予定者含む)の卒業確認が企業などからあった場合。
- ⑫ 官公庁からの申請により開示を必要とする場合。
- ⑬ 本学が発行する広報誌・紙に著名卒業生(出身者を含む)を掲載するため(政界、

定期刊行物案内

雑誌「法政」は在学生、保護者などを対象に年10回(7・8月および1・2月年間購読)希望と明記し、FAXか郵送でお申し込みください。振込用紙を送付します。年間購読料は1550円(送料含)です。



【お問い合わせ先】
本学の個人情報の取り扱いに関するお問い合わせは、法政大学総務部オレンジネット校友課までご連絡ください。
〒102-8160 東京都千代田区富士見2-17-1
法政大学総務部広報課 雑誌法政編集部
FAX 03(3264)9639
平日9時~17時まで



表章(おもてあきら)名誉教授

【主な経歴】1927年生まれ。北海道稚内市出身。東京文理大学卒業。51年9月、法政大学能楽研究室助手、翌52年4月、野上記念法政大学能楽研究所発足以来、45年以上にわたり、同研究所の所員として研究に邁進。86年より文学部長(能楽研究所長を兼務)。88年、文学部付置から独立した能楽研究所の所長となる。98年3月退職。本学名誉教授。主な著書に、『謡曲集(上・下)』『鴻山文庫本の研究』『金春古伝書集成』『世阿弥・禅竹』『能楽史新考(一・二)』『喜多流の成立と展開』『大和猿楽史参究』『観世流史参究』がある。95年に角川源義賞、05年瑞宝中綬章受章、09年法政大学能楽賞、10年日本学士院賞・恩賜賞受賞。

初めて表先生にお目にかかったのは1979年、まだ能楽研究所(能研)が麻布にあった頃だ。その頃の能研には、表先生に教える請おうと大学の枠を越えて多くの若い研究者や学生が集まっていたが、先生の周りでは誰もがビビリと緊張していた。80年に能研が市ヶ谷に移り、閑覧席と所員の机とが書棚で仕切られるようになった。先生は「驚き、異質な集中力と鋭さを生涯

最後の日まで持ち続け、些(いささ)かの妥協も哀えも見せられなかった。亡くなる当日も若い人たちの研究会に出席されたし、最後の御仕事となった著書2冊(通夜の日に見本刷りができた)の校正には、行間をぎっしりと埋める赤ペンの書き込みで詳細な指定が残っている。

【山手子(能楽研究所教授)】

【表章先生を偲んで】

【国内主要大会で優勝】

【スキー部】

【陸上競技部】

【フencing部】

【バドミントン部】

【重量挙げ部】

【弓道部】

【水泳部】

【国際大会の主な記録】

【スキー部】

【水泳部】

【重量挙げ部】

【弓道部】

【水泳部】

活躍する体育会

主要大会結果(09年12月~10年11月)

国内主要大会で優勝

スキー部

▽第17回全日本学生アルペンスプリング大会/女子大対校選手権大会/男子20回転石田華奈子(現代福祉2年)

陸上競技部

▽日本学生陸上競技個人選手権大会/男子400m



小林雄一選手の力走

最高裁判所の判事法服を展示

遠藤氏から寄贈



市ヶ谷キャンパスの法科大学院棟1階ロビーでは、最高裁判所の判事法服を常設展示している。本学卒業生で最高裁判所判事を務めた遠藤光男氏(現・弁護士)が実際に法廷で着用していたものを寄贈いただいた。

「千代田区」コミュニティ「サイクル社会実験」に参加

このほど、「風」研究の第一人者で蒐集家の故・比呂一朗氏のご遺族から本学へ和風や海外の風などのコレクションの寄贈があった。寄贈されたのは風(成形品または組立式キット)1995点、風絵(風キャンパスのポスター)1995点、風絵(風キャンパスで行われ、増田総長から比呂氏の奥様、悦子さんへ感謝状が手渡された。またコレクションの一部を展示した「風」比呂一朗コレクション」展覧会が7月6日~8月5日までポアンナード・タワー14階博物館展示室で開催され多数の見学者でにぎわった。



環境にやさしい交通システムの構築や街の賑わいづくりを目指す「千代田区コミュニティサイクル社会実験」が本学でも10月下旬~11月まで実施された。同区は平成21年に国から「環境モデル都市」に選定されており、実験は神田・秋葉

0m 小林雄一(経済3年)「フencing部」

▽第62回全日本フencing選手権大会/男子エペ団体

▽第60回日本学生王座決定戦/男子サーブル団体



男子サーブルの試合風景

▽第50回全日本大学対抗選手権大会/男子サーブル団体/男子エペ団体

▽第61回全日本学生バドミントン選手権大会/男子団体

インカレ優勝のバドミントン部男子



▽第56回全日本大学対抗ウエイトリフティング選手権大会/男子62kg級II平塚健太(キャリアデザイン4年)/94kg級II芦渡翔(文4年)

重量挙げ部

▽第55回全日本大学対抗ウエイトリフティング選手権大会/男子団体

▽第7回全日本学生ウエイトリフティング選抜大会

男子56kg級II東門勇将(キャリアデザイン3年)

▽第56回全日本学生ウエイトリフティング個人選手権大会/男子62kg級II平塚健太(キャリアデザイン4年)/94kg級II芦渡翔(文4年)

▽第56回全日本大学対抗ウエイトリフティング選手権大会/男子62kg級II平塚健太(キャリアデザイン4年)/94kg級II芦渡翔(文4年)

野球部の加賀美投手がドラフトで横浜が52位指名

2010年10月のプロ野球のドラフト会議で、体育会野球部の加賀美希昇投手(人間環境学部4年)が横浜ベイスターズから2位指名された。加賀美投手は神奈川県桐蔭学園出身。186cm、88kgの右腕で、150km超えのストレートに加え、カーブ、チェンジアップなどをまじえた多彩さと制球の良さが特徴。本学OB多数が活躍するプロ野球界で、加賀美投手の飛躍が注目される。



全日本選手権で優勝したポロ部女子エイト

▽第22回全国大学弓道選抜大会/男子の部(団体)

▽2009-2010 FIS FAR EAST CUP Yabuli(中国:2009年12月)/男子大回転優勝II松本勲人(社会4年II当時)

▽第5回東アジア競技大会(2009年12月)/男子4x200mリレー優勝、4x100mリレー優勝、男子200m自由形2位、同400m2位II内田翔(人間環境4年II当時)

▽2010ワールドカップ遠征(ブラジル)/男子200m平泳ぎ1位II大塚一輝(人間環境4年)

▽同(北京)/男子200m平泳ぎ2位、男子100m平泳ぎ5位II大塚一輝

▽同(シンガポール)/男子100m平泳ぎ3位、男子200m平泳ぎ2位II大塚一輝

▽第2回世界大学ウエイトリフティング選手権大会/男子56kg級2位II東門勇将

活躍する体育会に温かい応援をよろしくお願いたします!



チームメイトに祝福される加賀美投手